

II グループ会社の環境経営

九州電力のグループ会社では、地球温暖化の防止や循環型社会の形成などを企業の社会的責任と認識し、九州電力グループ一体となって環境経営を推進するとともに、各社の事業特性に応じた環境活動に取り組んでいます。

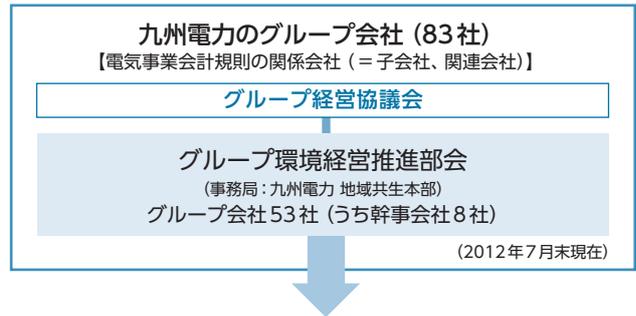
1	地球環境問題への取組み	49
2	循環型社会形成への取組み	51
3	地域環境の保全	52
4	社会との協調	52
5	環境管理の推進	53

グループ環境経営推進部会

「グループ経営協議会^{*}」の下部機関として「グループ環境経営推進部会」を設置し、環境活動の分析・評価・見直しにより、グループ会社一体となって環境経営を推進しています。2011年度は、新たに2社が「グループ環境経営推進部会」に加入しました。

^{*}：九州電力の関係会社で構成され、グループ経営に関する諸課題の検討、協議を行う機関。

 詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報 (P2参照) > **九電グループ紹介**



エネルギー関連事業 (29社)

〔● 幹事会社〕



設備の建設・保守 (11社)

- | | | | |
|--|--|--|---|
| <input type="radio"/> 九州林産 (株) | <input checked="" type="radio"/> 九電産業 (株) | <input type="radio"/> (株) プラズワイヤー | <input type="radio"/> 西九州共同港湾 (株) |
| <input type="radio"/> (株) 九電ハイテック [*] | <input checked="" type="radio"/> 西日本技術開発 (株) | <input type="radio"/> 西技測量設計 (株) | <input checked="" type="radio"/> (株) 九建 |
| <input type="radio"/> 西日本プラント工業 (株) | <input type="radio"/> 西技工業 (株) | <input checked="" type="radio"/> (株) 九電工 | |



資機材等の調達 (7社)

- | | | | |
|---|--|---------------------------------|-----------------------------------|
| <input checked="" type="radio"/> 九電テクノシステムズ (株) | <input type="radio"/> 九州高圧コンクリート工業 (株) | <input type="radio"/> (株) キューヘン | <input type="radio"/> 西日本電気鉄工 (株) |
| <input type="radio"/> 西日本空輸 (株) | <input type="radio"/> 光洋電器工業 (株) | <input type="radio"/> 誠新産業 (株) | |



電気の卸供給／エネルギー事業 (11社)

- | | | | |
|--------------------------------------|---|--|--------------------------------------|
| <input type="radio"/> 戸畑共同火力 (株) | <input type="radio"/> 北九州エル・エヌ・ジー (株) | <input type="radio"/> 長島ウインドヒル (株) | <input type="radio"/> (株) 福岡グリーンエナジー |
| <input type="radio"/> 大分共同火力 (株) | <input checked="" type="radio"/> 西日本環境エネルギー (株) | <input type="radio"/> (株) 福岡エネルギーサービス | <input type="radio"/> 九州冷熱 (株) |
| <input type="radio"/> 大分エル・エヌ・ジー (株) | <input type="radio"/> (株) キューデン・エコソル | <input type="radio"/> みやざきバイオマスリサイクル (株) | |



情報通信事業 (5社)

- | | | |
|---------------------------------------|--|-------------------------------|
| <input type="radio"/> 九州通信ネットワーク (株) | <input checked="" type="radio"/> ニシム電子工業 (株) | <input type="radio"/> (株) コアラ |
| <input type="radio"/> (株) キューデンインフォコム | <input type="radio"/> 九電ビジネスソリューションズ (株) | |



環境・リサイクル事業 (2社)

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="radio"/> (株) ジェイ・リライツ | <input type="radio"/> 九州環境マネジメント (株) |
|------------------------------------|--------------------------------------|



生活サービス事業 (17社)

- | | | | |
|---|---|---|-----------------------------------|
| <input checked="" type="radio"/> (株) 電気ビル | <input type="radio"/> (株) キューデン・グッドライフ福岡浄水 | <input type="radio"/> 九州高原開発 (株) | <input type="radio"/> 九州住宅保証 (株) |
| <input type="radio"/> (株) キューデン・グッドライフ | <input type="radio"/> (株) 九電ビジネスフロント | <input type="radio"/> (株) 九電ホームセキュリティ | <input type="radio"/> 伊都ゴルフ土地 (株) |
| <input type="radio"/> (株) キューデン・グッドライフ東福岡 | <input type="radio"/> 九電不動産 (株) | <input type="radio"/> (株) 九電シェアードビジネス | |
| <input type="radio"/> (株) キューデン・グッドライフ熊本 | <input type="radio"/> (株) 九電オフィスパートナー | <input type="radio"/> (株) 九州幕放送共同制作センター | |
| <input type="radio"/> (株) キューデン・グッドライフ鹿児島 | <input type="radio"/> 九州メンテナンス (株) [*] | <input type="radio"/> (株) オークパートナーズ | |

^{*}：2011年度に「グループ環境経営推進部会」に新規加入した会社 (計2社)。

事業活動と環境負荷の状況

下図は、グループ会社での資源や資材の投入から、事業活動を経てどのような環境負荷が発生しているかを表したものです。今後も、この現状を踏まえ、更なる環境負荷低減に努めていきます。

資源投入量	
・電力量 ^{*1} ……………	224.2 百万kWh
・燃料 ^{*2} (軽油、ガソリン、A重油など) ……………	8.3 千kl (LNG、LPGなど) …………… 1.5 千トン
・水 ……………	4.1 百万トン
・熱 (蒸気など) ……………	34.7 百万MJ
・コピー用紙 ……………	123.8 百万枚
・PRTR制度の指定化学物質取扱量 ……………	154.0 トン

INPUT



**エネルギー関連
事業**



**情報通信
事業**



**環境・リサイクル
事業**



**生活サービス
事業**

環境活動

- ・環境目標管理
- ・省エネ、省資源推進
- ・温室効果ガス排出抑制
- ・規制対象フロン排出抑制
- ・リサイクル推進
- ・グリーン調達推進
- ・大気汚染物質排出抑制
- ・環境教育の実施

環境負荷低減量

- ・温室効果ガス排出抑制量^{*3} …………… 30.7 千トン-CO₂
- ・産業廃棄物リサイクル率 (量) …………… 93 % (105.1 千トン)
- ・SOx 排出低減量^{*5} …………… 8.3 千トン
- ・規制対象フロン回収実施率^{*4} …………… 100 %
- ・古紙リサイクル率 (量) …………… 92 % (0.7 千トン)
- ・NOx 排出低減量^{*6} …………… 2.1 千トン



詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報 (P2参照) > 温室効果ガス排出抑制量 (グループ会社)

OUTPUT

・温室効果ガス排出量 ^{*2} ……………	130.3 千トン-CO ₂	・PRTR制度の指定化学物質排出量 (大気) ……………	36.8 トン
・オゾン層破壊物質排出量 ^{*7} ……………	0.02 ODPトン	・産業廃棄物処分量 ……………	7.5 千トン
・SOx排出量 ……………	1.9 千トン	・古紙処分量 ……………	0.07 千トン
・NOx排出量 ……………	2.4 千トン		

^{*1}：発電所内電力量等を除く購入電力量を計上。 ^{*2}：電力会社等への販売電力量分 (発電用燃料及びその燃焼に伴う排出量) を除く。
^{*3}：新エネルギー等の導入実績において、導入しなかった場合をベースラインとして算出。 ^{*4}：点検時において法令基準レベル (撤去時における法定圧力) までガス回収を実施した機器の割合。
^{*5}：ばい煙発生施設 (ボイラー等) において、脱硫処理や低硫黄燃料の使用を行わなかった場合をベースラインとして算出。
^{*6}：ばい煙発生施設 (ボイラー等) において、脱硝処理を行わなかった場合をベースラインとして算出。 ^{*7}：各フロンのオゾン層破壊係数を用いて、CFC-11 重量相当に換算。
(注) 実績集約の考え方については、P49参照。

環境目標と実績

主要な環境活動について目標を定め、環境負荷の継続的な低減に努めています。

項目	単位	実績			2011年度環境目標	2012年度環境目標		
		2009年度	2010年度	2011年度				
地球環境問題への取組み	オフィス電力	使用量	百万kWh	28.3	29.6	25.9	—	—
		単位面積あたり使用量	kWh/m ²	116.2	119.6	105.0	130以下	112程度
	自家物流輸送 (特殊車両等を除く)	低公害車導入比率 ^{*1}	%	58	62	66	60以上	60以上
		燃料消費率 (燃費)	km/l	10.8	10.7	10.9	11.0以上	11.0以上
	SF ₆ (六フッ化硫黄) 回収率	機器点検時	%	実績なし ^{*2}	実績なし ^{*2}	実績なし ^{*2}	98以上	98以上
		機器撤去時	%	100	99	100	99以上	99以上
	機器点検時の規制対象フロン回収実施率	%	100	100	100	100	100	
用紙使用量 ^{*3}	百万枚	127.9	130.2	123.8	事務用紙使用量の節約	事務用紙使用量の節約		
上水	使用量	千トン	175.7	179.4	161.7	—	—	
	一人あたりの使用量	m ³ /人	19	19	16	18以下	18以下	
形成への取組み 循環型社会	リサイクル率	産業廃棄物	%	91	94	93	90以上	90以上
		石灰灰	%	100	100	100	100	100
		石灰灰以外	%	80	82	82	80以上	80以上
	古紙	%	93	96	92	97程度	97程度	
グリーン調達率	%	82	84	86	80程度	80程度		
地域環境の保全	火力発電電力量あたりのSOx排出量	g/kWh	0.32	0.19	0.20	0.3程度	—	
	火力発電電力量あたりのNOx排出量	g/kWh	0.27	0.21	0.24	0.3程度	—	

^{*1}：電気自動車 (プラグインハイブリッド車を含む)、ハイブリッド車及び低燃費車のグループ会社保有車両総台数に占める割合。 ^{*2}：設備は保有しているが、機器の点検の実績がないもの。
^{*3}：用紙使用量はA4サイズ換算枚数。
(注) 実績集約の考え方については、P49参照。


 詳細は九州電力ホームページ
 関連・詳細情報 (P2参照) > オフィス電力・自家物流輸送 (グループ会社)

用語集を
ご覧ください

- LNG (液化天然ガス)
- 大気汚染
- SOx (硫黄酸化物)
- ばい煙
- O₃ (オゾン)
- 上水
- LPG (液化石油ガス)
- 規制対象フロン
- NOx (窒素酸化物)
- 脱硫処理
- CFC-11 (トリクロロフルオロメタン)
- PRTR (制度)
- グリーン調達
- オゾン層破壊物質
- 低硫黄燃料
- 自家物流輸送
- 指定化学物質
- 産業廃棄物
- 所内電力 (量)
- 脱硝処理
- 低公害車
- 温室効果ガス
- リサイクル率
- 新エネルギー (新エネ)
- フロン
- SF₆ (六フッ化硫黄)

1 地球環境問題への取組み

温室効果ガスの排出抑制

オフィス電力使用量などのグループ環境目標を設定し、省エネ活動、省エネ機器の導入及びエコドライブ等をグループ一体となって推進しています。

2011年度は、電力使用量や工業用燃料の使用量減に伴うCO₂排出量の減少等により、温室効果ガス全体の排出量も減少しました。

温室効果ガス排出量 単位：千トン-CO₂

	2009年度	2010年度	2011年度
CO ₂ (二酸化炭素)*	118.7	119.5	113.9
CH ₄ (メタン)*	0.3	0.1	0.5
N ₂ O (一酸化二窒素)*	0.0	0.0	0.0
HFC (ハイドロフルオロカーボン)	23.7	18.0	15.9
PFC (パーフルオロカーボン)	—	—	—
SF ₆ (六フッ化硫黄)	—	0.0	—
合計	142.6	137.5	130.3

(注) 四捨五入のため合計値が合わないことがある。
 ※：電力会社等への販売電力量分(発電用燃料の燃焼に伴う排出量)を除く。

各種エネルギー使用量

		単位	2009年度		2010年度		2011年度		
			会社数	使用量	会社数	使用量	会社数	使用量	
電力	オフィス	百万kWh	38	28.3	42	29.6	41	25.9	
	工場等	百万kWh	32	208.6	33	213.4	33	198.3	
燃料	車両等	ガソリン等	千ℓ	41	6.7	44	6.6	43	6.6
		天然ガス	千m ³ N	1	0.3	1	0.3	1	0.1
	冷暖房用	千ℓ	9	0.1	9	0.1	9	0.1	
	工業用*	A重油等	千ℓ	12	1.7	12	1.8	13	1.6
		LNG、LPG	千トン	7	1.8	7	1.8	7	1.4
熱	蒸気等	百万MJ	3	48.1	3	45.7	3	34.7	

※：電力会社等への販売電力量分(発電用燃料)を除く。

詳細は九州電力ホームページ
 関連・詳細情報 (P2参照) > 温室効果ガスの排出量の詳細実績 (グループ会社)

私の環境アクション

2011年度 夏期の節電対策について

(株)電気ビルでは、当社が管理する九州電力本店(電気ビル本館)・支社社屋(電気ビル新館等)において、2011年6月から九州電力(株)地域共生本部(環境担当)とともに、建物内のお客さまのご協力を得て運用面での節電対策(空調設定温度の厳正管理、エレベーター間引き、照明管球間引き等の拡大・強化)を行い、対2010年度比16%減という大きな成果を得ることができました。

また、一般テナントビルにおいても、入居お客さまを対象として節電にご協力いただけるお客さまの空調・共益費を割り引くインセンティブ措置に対してご賛同をいただき、九州電力本店・支社社屋を含む電気ビル全社で、対2010年度比15%減を達成しました。この15%の削減は、従来から省エネ法に基づく省エネ対策(主に、機器の効率的な運用、省エネ機器への改修・更新等“お客さま室内環境への影響が少ない”手法)に取り組んできた当社にとって驚異的な数字であり、建物内お客さまのご協力の賜物と考えております。

2012年度も引き続き節電対策に取り組んでまいりますので、お客さまにはご不便をおかけし大変申し訳ありませんが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



電気ビル本館1階エレベーターホール 電気ビル(本館・新館)



(株)電気ビル 施設管理部
 副部長兼施設管理課長

こがとしお
古賀 登志雄



環境活動実績 (P48~P54) 集約の考え方

- 各環境活動実績は、集計対象のグループ会社のうち、実績の把握が可能なすべての会社(下表)の集計値です。
(九州電力は含まない)

環境活動実績の集計対象

2009年度	グループ環境経営推進部会 全50社
2010年度	グループ環境経営推進部会 全52社
2011年度	グループ環境経営推進部会 全51社*

- 四捨五入の関係上、合計値及び百分率が合わないことがあります。
- 購入電力に伴うCO₂排出量は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、国から公表された「電気事業者別二酸化炭素排出係数」を用いて算出しています。

※：2012年1月、(株)キューキと九州計装エンジニアリング(株)が合併して、九電テクノシステムズ(株)を設立のため、2011年度実績は1社として集計。

用語集を
 ご覧ください

- 地球環境問題
- 温室効果ガス
- エコドライブ
- CH₄ (メタン)

- N₂O (一酸化二窒素)
- HFC (ハイドロフルオロカーボン)
- PFC (パーフルオロカーボン)
- SF₆ (六フッ化硫黄)

- 天然ガス
- LNG (液化天然ガス)
- LPG (液化石油ガス)
- 地球温暖化対策の推進に関する法律

- 事業者別(二酸化炭素)排出係数

こんな事業やっています～エネルギー関連事業～

再生可能エネルギーの積極的な開発・導入 グループ各社23社

国産エネルギーの有効活用の観点から、また、地球温暖化対策面で優れた電源であることから、再生可能エネルギーの積極的な開発・導入を進めています。

グループ各社のうち14社が風力・太陽光・バイオマス発電などの再生可能エネルギーの設備を導入しており、また、再生可能エネルギー設備の工事施工や設計業務に関わるグループ会社を含めると、延べ23社が設備導入や開発に携わっています。

〔設備導入状況〕

項目	会社数	総設備容量
風力発電	3社 ^{※1}	64,390kW ^{※1}
太陽光発電	9社	1,240kW
バイオマス発電	1社 ^{※1}	11,350kW ^{※1}
廃棄物発電	1社	29,200kW
合計	14社	106,180kW



みやざきバイオマスリサイクル(株)
みやざきバイオマスリサイクル発電所

〔設備導入・開発に取り組む会社(青文字は設備導入会社)〕

風力発電(6社)^{※1}

- 西日本プラント工業(株)
 - 鷗尾岳風力発電(株)
 - 奄美大島風力発電(株)
- 西日本技術開発(株)
- (株)九電工
- 長島ウインドヒル(株)

太陽光発電(12社)

- 西技工業(株)
- (株)九電工
- 九電テクノシステムズ(株)
- 光洋電器工業(株)^{※2}
- (株)キューヘン^{※2}
- 誠新産業(株)
- 西日本環境エネルギー(株)
- (株)キューデン・エコソル
- ニシム電子工業(株)^{※2}
- (株)電気ビル
- (株)キューデン・グッドライフ東福岡
- 九電不動産(株)^{※2}

廃棄物発電(1社)

- (株)福岡クリーンエナジー

水力発電(1社)

- 西日本技術開発(株)

地熱発電(1社)

- 西日本環境エネルギー(株)



長島ウインドヒル(株) 長島風力発電所

※1:グループ会社の子会社を含む。 ※2:九州電力の研究設備として、グループ各社に設置。

電気自動車の充電インフラ設備の推進と省エネ対策への対応 九電テクノシステムズ(株)

九電テクノシステムズ(株)は、環境経営に配慮した社会インフラ事業の一つとして電気自動車用充電インフラ設備の開発・販売を進めています。政府が策定した「次世代自動車戦略2010」を背景として、チャデモ(CHA de MO)*協議会が定める急速充電方式「チャデモ・プロトコル」の認証取得や「クリーンエネルギー自動車等導入費補助事業」の補助対象機種認定を取得しました。また、充電インフラ設備に新たな付加価値を生みだす取組みとして、通信機能を搭載した普通充電スタンドの実証実験を福岡市と共同で行っています。これらの取組みを通じて低炭素社会の実現に向け、貢献しています。

また、2011年3月に発生した東日本大震災を機に、更なる節電に力を注ぎ、不使用機器の電源停止の徹底をはじめとして、下記の省エネ対策の実施について全社一丸となって取り組みました。

- 1 太陽光発電設備の設置(20kW)
- 2 蛍光灯のLED化(1,273本)
- 3 窓ガラスに遮熱フィルムを貼付
- 4 「ECOねっとシステム」による電力の見える化と空調機のデマンドコントロール制御(空調機制御容量263kW)

その結果、対2010年度比で年間電力使用量は16.8%削減、年間最大電力は14.9%削減できました。

※:協議会が標準化を進めている急速充電器の商標名。「CHArge de MOve=動く、進むためのチャージ」、[de=電気]、また「クルマの充電中にお茶でもどうですか」の3つの意味を含む。



急速充電器



太陽光発電設備

オゾン層の保護

オゾン層を破壊するフロン類の回収を徹底するため、グループ環境目標を設定し、フロン類の排出抑制にグループ一体となって取り組んでいます。

2011年度は、洗浄機械をフロンを使用しないものに更新(2010年度実施)したことにより、HCFCの排出量が減少しました。また、ハロンを使用しない設備への更新により、ハロン保有量も減少しました。

オゾン層破壊物質保有量等

単位:トン

		2009年度		2010年度		2011年度	
		会社数	実績	会社数	実績	会社数	実績
CFC	保有量	4	15.5	4	15.5	4	15.5
	排出量		—		—		—
HCFC	保有量	26	54.7	26	53.5	25	53.1
	排出量		4.8		1.9		0.6
ハロン	保有量	6	12.4	6	12.3	6	9.4
	排出量		—		0.4		—

単位:ODPトン

オゾン層破壊物質排出量*	0.1	3.7	0.0
--------------	-----	-----	-----

※:各フロン類のオゾン層破壊係数を用いて、CFC-11重量相当に換算。

用語集を
ご覧ください

- 再生可能エネルギー
- 地球温暖化
- バイオマス
- 電気自動車

- 環境経営
- 低炭素社会
- ECOねっとシステム
- デマンドコントロール

- オゾン層
- フロン
- HCFC(ハイドロクロロフルオロカーボン)
- ハロン

- オゾン層破壊物質
- CFC(クロロフルオロカーボン)
- オゾン層破壊係数
- CFC-11(トリクロロフルオロメタン)

2 循環型社会形成への取組み

廃棄物のゼロエミッション活動の展開

廃棄物のリサイクル率についてグループ環境目標を設定し、リサイクル率の維持・向上をグループ一体となって推進しています。

また、事務用品等の購入の際は、環境負荷の少ない物品を優先して調達するグリーン調達に努めています。

廃棄物の発生状況

	単位	2009年度		2010年度		2011年度	
		会社数	実績	会社数	実績	会社数	実績
産業廃棄物	発生量 千トン	34	81.8	39	103.6	37	112.6
	リサイクル率 %		91		94		93
古紙	発生量 千トン	48	1.0	49	0.9	47	0.8
	リサイクル率 %		93		96		92

詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報 (P2参照)

産業廃棄物の種類ごとの発生量及びリサイクル量の実績 (グループ会社)

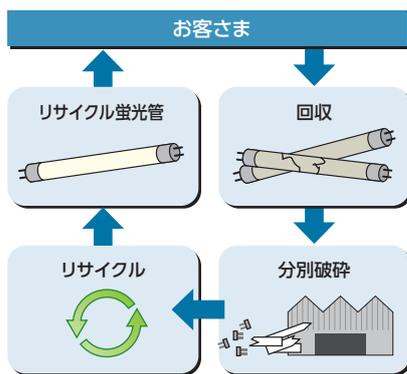
こんな事業やっています～環境・リサイクル事業～

蛍光管・乾電池リサイクル事業 (株)ジェイ・リライツ

(株)ジェイ・リライツは、回収した使用済蛍光管を可能な限り元の原料(ガラス・蛍光体・金属・水銀)に戻すリサイクル事業や、再生蛍光体・ガラスを使用したリサイクル蛍光管の製造・販売に取り組んでいます。

また、使用済乾電池リサイクル事業にも取り組んでおり、回収した乾電池(一次電池)を破碎・選別(金属・亜鉛・マンガン等)して、精錬会社等へ原材料として供給しています。

さらに、2012年3月からは全国初の取組みとして、福岡県・九州大学他と共同で「使用済蛍光管からのレアアース回収・再資源化」事業を進めています。本取組みは、輸入に大きく依存しているレアアース資源の安定確保に貢献できるものと期待されています。



使用済蛍光管リサイクル事業のイメージ図



リサイクル処理工場



リサイクル蛍光管“よかランプ”

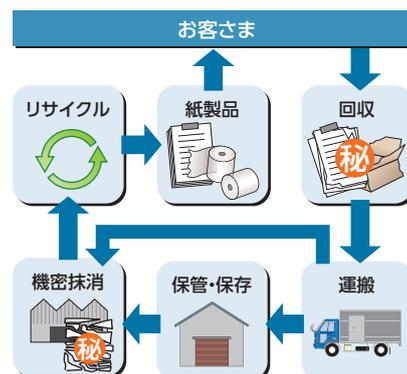
機密文書のリサイクル事業 九州環境マネジメント(株)

九州環境マネジメント(株)は、従来、シュレッダー・焼却処分されていた機密文書の機密抹消・リサイクルを行う事業をはじめ、再生コピー用紙・トイレtpーパーなどのグリーン製品の製造・販売や文書類の保管事業を行っています。お客さまから機密文書を回収するにあたっては、セキュリティに配慮した回収ボックスや文書類の盗難及び飛散防止等の機能を有した専用車両を使用しています。

また、処理施設は、一般財団法人日本品質保証機構(JQA)の安全及び機密保持基準をクリアし、九州で初めてリサイクル処理センター安全対策適合認定(2007年10月に情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS) / ISO27001認証取得)を受け、維持継続して運用しています。



グリーン製品



機密文書リサイクル事業のイメージ図



機密文書専用回収ボックス



破碎処理した文書類

用語集を
ご覧ください

- 循環型社会
- ゼロエミッション
- リサイクル率
- グリーン調達
- 産業廃棄物
- レアアース
- 日本品質保証機構(JQA)
- 情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS) / ISO27001

3 地域環境の保全

環境保全の推進

グループ各社で取り扱う法規制物質等は、関係法令に基づき適正な運用・管理に努めています。PRTR制度における指定化学物質の取扱量等の多くは、機器塗装で使用する塗料に含有しているキシレンやトルエンであり、この排出量等は業務の受注量等により変動が生じます。

また、PCB廃棄物は、2011年度は62台の無害化処理を行い、2012年3月末現在の保有量は、302台となっています。保管中のPCB廃棄物は、廃棄物処理法などに基づき厳重に保管・管理を行っています。

PRTR制度における指定化学物質の取扱量等 単位：トン

	2009年度		2010年度		2011年度	
	会社数	実績	会社数	実績	会社数	実績
取扱量		39.8		129.9		154.0
排出量(大気)	6	33.9	7	32.8	7	36.8
移動量		74.8		120.1		93.6

(注) PRTR制度の指定化学物質で届出が必要なデータを計上。

PCB廃棄物の保有状況等 (2011年度) 単位：台

	処理状況		保有状況	
	会社数	処理量	会社数	保有量
トランス	1	1	1	2
コンデンサ	—	—	4	24
安定器	1	61	3	275
その他	—	—	1	1
合計	延べ2	62	延べ9	302

大気汚染物質の排出量 単位：千トン

	2009年度		2010年度		2011年度	
	会社数	実績	会社数	実績	会社数	実績
SOx排出量		2.4		1.7		1.9
NOx排出量	4	2.2	4	2.4	4	2.4

(注) ばい煙量の法的測定義務により、SOx・NOx排出量を把握している会社のデータを計上。

詳細は九州電力ホームページ
 関連・詳細情報 (P2参照) ▶ PRTR制度の指定化学物質の物質ごとの
 取得量等実績・発電設備のSOx、NOxの排出量等の実績 (グループ会社)

4 社会との協調

環境コミュニケーションの推進

グループ会社での環境活動情報については、本レポートをはじめ、九州電力ホームページにおいても公開しています。

また、2012年2月から各社それぞれの環境情報 (環境方針など) についても、九州電力ホームページを活用し掲載しています。

詳細は九州電力ホームページ
 関連・詳細情報 (P2参照) ▶ 九電グループ環境経営



九州電力ホームページ
 (環境への取り組み (九電グループ環境経営))

地域における環境活動の推進

「九州ふるさとの森づくり」への参加や各社独自の地域清掃活動など、地域における環境活動に積極的に取り組んでいます。



フェニックス街路樹の清掃活動 (株) 九電工



事業所近隣の清掃活動 (九州林産 (株))

用語集を
 ご覧ください

- PRTR (制度)
- 指定化学物質
- キシレン
- トルエン
- PCB (ポリ塩化ビフェニル)
- 大気汚染
- SOx (硫黄酸化物)
- NOx (窒素酸化物)
- ばい煙

5 環境管理の推進

環境マネジメントシステム(EMS)の的確な運用

グループ会社のEMSは、構築レベルを6段階に分類した九州電力のグループ会社独自の統一的な基準（「九電グループにおけるEMS構築体制基準」）に基づき、グループ会社ごとに構築しています。グループ環境経営推進部会の加入会社は、第1段階以上のEMSを構築するなど、各社の事業特性に応じた環境活動に取り組んでいます。

なお、2011年度は、(株)九建が第6段階へレベルアップし、九州高圧コンクリート工業(株)及び西九州共同港湾(株)がエコアクション21の認証を取得しました。また、2社が第3段階へレベルアップし、3社が第2段階へレベルアップしました(下表)。

詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報(P2参照) 九電グループにおけるEMS構築体制基準

EMS構築状況(2012年3月末現在)

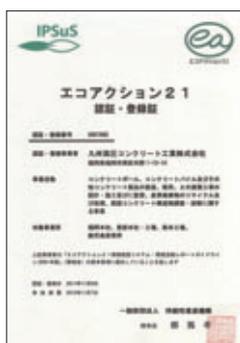
EMS構築レベル		会社数	会社名		
第6段階	ISO14001認証取得 (全事業所で認証を取得している会社)	6	西日本環境エネルギー(株)	北九州エル・エヌ・ジー(株)	(株)キューヘン
			九州環境マネジメント(株)	西日本技術開発(株)	(株)九建
第5段階	ISO14001認証取得 (一部の事業所で認証を取得している会社)	6	(株)九電工(本社)	誠新産業(株)(本社、北九州グループ)	ニシム電子工業(株)(本社、佐賀工場、保守サポートセンター)
			九電産業(株)(環境部)	(株)福岡グリーンエナジー(東部工場)	九電テクノシステムズ(株)(本店西エリア・福岡工場)
第4段階	ISO14001準拠	5	大分エル・エヌ・ジー(株)	戸畑共同火力(株)	西日本空輸(株)
			大分共同火力(株)	西日本プラント工業(株)(本店)	—
第3段階	エコアクション21(EA21)認証取得	7	(株)ジェイ・リライツ	光洋電器工業(株)	西九州共同港湾(株)
			九州林産(株)	(株)キューデンインフォコム	—
			西日本電気鉄工(株)	九州高圧コンクリート工業(株)	—
	ISO簡易システム	3	九電ビジネスソリューションズ(株)	九州通信ネットワーク(株)	西技工業(株)(須恵事業所、宮崎営業所、日向営業所)
第2段階	文書による体制、目標管理、 遵守評価の実施	18	九州冷熱(株)	(株)キューデン・グッドライフ	(株)キューデン・グッドライフ熊本
			(株)電気ビル	(株)キューデン・グッドライフ福岡浄水	西技測量設計(株)
			(株)キューデン・グッドライフ鹿児島	(株)キューデン・グッドライフ東福岡	九州住宅保証(株)
			(株)九電シェアードビジネス	(株)九電ビジネスフロント	(株)プラスワイヤー
			(株)九州字幕放送共同制作センター	(株)オーフパートナーズ	九電不動産(株)
			(株)福岡エネルギーサービス	みやざきバイオマスリサイクル(株)	(株)九電ホームセキュリティ

(注) 第1段階(環境管理体制の整備、環境方針の策定、環境目標の策定): 5社。 第1段階のEMSを構築中: 3社(2010年度及び2011年度に新規加入した会社)。

エコアクション21の認証を取得しました。

九州高圧コンクリート工業(株)

九州高圧コンクリート工業(株)は、2008年からEMSに基づき環境活動を行ってまいりましたが、環境問題に対する社会情勢の高まりを受け、2010年12月に環境方針・環境マニュアルを改定し、2011年1月からエコアクション21を導入しました。試行期間を経て審査を受けた結果、環境に配慮した会社として環境負荷低減への取組みが認められ、2011年11月にエコアクション21の認証を取得する事ができました。今後も、持続可能な社会の形成に寄与するとともに、環境経営に積極的に取り組み、地球にやさしい企業を目指していきます。



西九州共同港湾(株)

西九州共同港湾(株)は、九州電力松浦発電所及び電源開発松浦火力発電所の港湾・揚運炭設備の管理運用を一元的かつ効率的に行うことを目的として設立され、共有設備の管理運用、港湾運送業、船舶代理店業、曳船業、内航海運業、通関業などの事業を行っています。2003年度から九電グループにおけるEMS構築体制基準に基づきEMSの運用に取り組み、2011年度エコアクション21の認証を取得しました。今後も炭塵含有水漏洩や油漏洩などの環境事故の未然防止をはじめとして、4R(リデュース・リユース・リサイクル・リフューズ)、グリーン購入の推進、地域の清掃活動等への積極的参加を継続し、二酸化炭素、一般廃棄物及び排水の削減に努め、循環型社会の形成に貢献していきます。



環境に関する法規制遵守の状況

主要な環境関連の法令等に基づく改善勧告・命令や罰則について、2011年度はグループ各社において適用を受けた事例はありません。今後も引き続き、EMSの適切な運用に努めるなど、法令遵守はもとより、企業倫理にのっとった公正で透明性の高い事業活動を推進していくとともに、地元自治体と締結している環境保全協定等についても厳正に遵守していきます。

用語集を
ご覧ください

- 環境マネジメントシステム(EMS)
- ISO(14001)準拠(システム)
- 3R(4R)
- エコアクション21
- ISO簡易システム
- グリーン購入
- 環境保全協定
- 持続可能な社会
- 一般廃棄物
- ISO14001
- 環境経営
- 循環型社会

「エコアクション21 環境活動レポート大賞」にて受賞しました。

九州林産(株)

特定非営利活動法人九州環境カウンセラー協会主催の2011年度エコアクション21環境活動レポート大賞において、九州林産(株)の2010年度環境活動レポートが、九州地方環境事務所長特別賞を受賞しました。受賞理由は、環境負荷の低減活動に加え、事業活動を通じて地域や顧客の環境改善に積極的に取り組むなど「自然環境保全」を主たる事業分野としている当社の幅広い活動が評価されたことによるものです。特に、4,447haに及ぶ九州電力社有林の維持管理によってもたらされる二酸化炭素の吸収固定効果や生物多様性の保全など、当社のユニークな取組みが高い評価を受けました。



光洋電器工業(株)

特定非営利活動法人九州環境カウンセラー協会主催の2011年度エコアクション21環境活動レポート大賞において、光洋電器工業(株)の2010年度環境活動レポートがエネルギー部門賞を受賞しました。エネルギー部門賞は、特に省エネに関する取組みに優れ、その成果が大きいまたは期待できる事業所が受賞します。当社の2010年度の活動で、二酸化炭素排出量削減、廃棄物排出量削減及び水使用量削減に対する取組み・実績が評価されました。また、従業員の自主的な活動として取り組んでいるボランティア活動、ノーマイカーデー活動に関しても高評価をいただきました。



環境会計

「九電グループにおける環境会計基準」に基づき、各社で算定した環境活動コストを集約しています。

単位：百万円

環境活動の分類	主な活動	2010年度		2011年度		2011年度環境活動	
		投資	費用	投資	費用	項目	効果
地球環境保全	地球温暖化防止及びオゾン層保護対策等	3,508.5	1,215.1	1,968.1	1,440.2	温室効果ガス排出抑制量*1	27.0千トン-CO ₂
地域環境保全	大気汚染・水質汚濁・騒音・振動防止対策等	0.0	2,223.6	11.7	1,657.7	SOx排出低減量*2 NOx排出低減量*3	8.3千トン 2.1千トン
資源循環	産業廃棄物・一般廃棄物の適正処理等	21.6	978.1	58.7	1,140.4	法令、条例に基づき適正に管理 産業廃棄物リサイクル量 産業廃棄物適正処分量 古紙リサイクル量 一般廃棄物の適正処理	105.1千トン 7.5千トン 0.7千トン
グリーン調達	グリーン調達で発生した差額コスト	—	17.1	—	14.0	—	—
環境活動の管理	環境教育、EMS運用管理、環境負荷監視・測定、構内緑化等	41.0	284.6	120.5	269.9	環境講演会 集合講演会 出前講演会 外部認証取得会社(ISO14001、EA21) EMSの第2～4段階への取組会社*4 環境関連データベース項目数	48社 58人参加 8社 285人参加 19社 26社 858項目
環境関連研究	廃棄物有効利用等	0.0	0.0	0.0	1.9	—	—
社会活動	地域の環境活動支援等	0.0	3.0	0.0	2.0	「九州ふるさとの森づくり」植樹活動 地域清掃活動	28社延べ746人参加 32社実施
環境損傷対応	公害健康被害補償制度による汚染負荷量賦課金	—	156.5	—	161.2	—	—
合計	—	3,571.1	4,878.0	2,159.0	4,687.4	—	—

※1：新エネルギー等の導入実績において、導入しなかった場合をベースラインとして算出。
 ※2：ばい煙発生施設(ボイラー等)において、脱硫処理や低硫黄燃料の使用を行わなかった場合をベースラインとして算出。
 ※3：ばい煙発生施設(ボイラー等)において、脱硝処理を行わなかった場合をベースラインとして算出。
 ※4：EA21 認証取得会社を除く。

環境教育・環境情報共有化

グループ会社の集合講演会及び各社ごとの環境講演会の実施により、グループ会社社員の環境意識高揚を図っています。

また、インターネットを活用した「九電グループ情報ネットワーク」に環境関連法規制等の情報を掲載し、グループ会社の環境情報共有化を図っています。

環境講演会(2011年度)

項目	内容	受講者数
グループ会社社員講師による集合講演会	「エコアクション21の認証取得への取組み」 九州高圧コンクリート工業(株) 企画部 企画グループ長 梅田 崇氏	48社 58人
	「九州電力社有林のすばらしさ～森林の保全管理及びFSC森林認証について～」 九州林産(株) 総務部付 部長 桑原 辰美氏	
	「平成23年度夏期の節電対策事例と共創館環境配慮技術の概要について」 (株)電気ビル 技術部 技術課長 古賀 登志雄氏 (株)電気ビル 事業開発部 設備課長 香田 和己氏	
九州電力社員による出前講演会	西日本プラント工業(株)	57人
	ニシム電子工業(株)	65人
	九州高圧コンクリート工業(株)	140人
	(株)キューデン・グッドライフ(5社)	23人

用語集を
ご覧ください

- 社有林
- 環境活動コスト
- 大気汚染
- 資源循環
- 汚染負荷量賦課金
- 低硫黄燃料
- 吸収固定
- 地球温暖化
- 水質汚濁
- 産業廃棄物
- 新エネルギー(新エネ)
- 脱硝処理
- 生物多様性
- オゾン層
- SOx(硫黄酸化物)
- グリーン調達
- ばい煙
- FSC(森林管理協会)
- 環境会計
- 温室効果ガス
- NOx(窒素酸化物)
- 公害健康被害補償制度
- 脱硫処理
- 森林(管理)認証